



弘前大学次世代ウェルビーイング研究センター 研究グループ
「地域の紙を用いた多版多色の木版画技法に基づく美術科授業」



The Research Centre for
Next Generation Well-Being
Faculty of Education,
Hirosaki University



弘前市立津軽中学校3学年

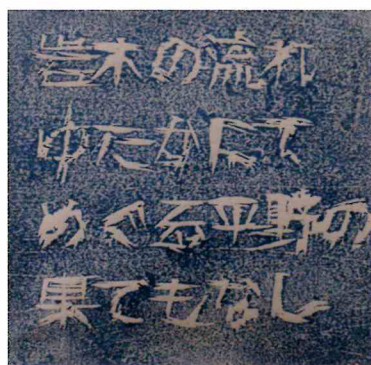
美術の授業から

地域をPRする多版多色木版画展

[入場無料]

2025年7月5日(土)～19日(土)

10:00～17:00



会場：弘前大学附属図書館 1 階
グローバル・スクエア



お問合せ先
弘前大学教育学部デザイン研究室 (佐藤)
Email: ms@hirosaki-u.ac.jp

弘前市立津軽中学校 3 学年

美術の授業から ― 地域を PR する多版多色木版画展 ―

ごあいさつ

弘前市立津軽中学校 教諭 蒔苗靖子

この展覧会は、2年生の美術の授業で作られた多版多色木版画の展覧会です。額装した作品約70点と、コースター、灯籠、そしてカード状になった作品が展示されています。

生徒が作った全作品で展覧会を行うという実践は、前任校（弘前大学附属中学校）在任中の2020年から始まり、HIROSAKI ORANDO や弘前大学資料館で行ってきました。来場された方に量産された生徒の作品を差し上げるという企画でしたが、津軽中学校に赴任してからはカード以外にもポチ袋などの小物を作り、同様に差し上げています。

当時から弘前大学教育学部美術教育講座の佐藤光輝先生の御協力により「りんご・桜和紙」を摺り紙にしておりましたが、今回は「ニセアカシア」の紙を使用させていただきました。今回の展覧会開催に際しまして、弘前大学図書館並びに御協力してくださいました皆様方に、改めて感謝を申し上げます。

多版多色木版は浮世絵と同様の技法なので、とても難しい技法です。彫る箇所を間違えてやり直したり、うまく摺れなかったり、幾度も挫折を味わいます。しかし、美術の時間に何度も試行錯誤し、色ごとに分けられた版木が一枚の摺り紙に摺られた末、ようやく納得のいく作品が完成すると、今までの苦労が成功感や達成感に変わります。

今回、生徒のやる気を奮い立たせたのは、宇田川新聞さんというプロの版画家が来校して摺の技を見せてくださったことに尽きるでしょう。TV番組でお馴染みのあの可愛いキャラクターが目の前で摺られた時の驚き、実際に自分の版画作品が宇田川さんにほめられた時の喜びは、たった一時間の美術の時間だったとしても、「本物にふれた」「本物の仕事を見た」という経験に他ならないのです。義務教育を終えると、美術という教科に関わらない生徒がほとんどなのかもしれませんが、だからこそできるだけ本物にふれる喜びを経験させたい、また中学生という時期にしかできない造形の力を地域の皆様に伝えたい、という思いで実践を重ねてきました。

「地域＝弘前の良さをPRする」という条件下では「りんご」「岩木山」「桜」というイメージが浮かびますが、同じ桜のイメージでも生徒の発想は様々です。道路の両脇に咲き誇る桜を作品にした生徒もいれば、春陽橋から桜のトンネルを見る人々と桜を作品にした生徒もいます。津軽中学校出身の方々の旧岩木町への愛は深く、<ふるさと岩木>に誇りをもっている生徒がたくさんいます。今回は嶽温泉、けの汁、對馬菓子舗さんなどもテーマとなっており、それは自分たちのふるさとで愛されている場所やお店であると同時に、住んでいる場所でもあるのです。中学生が見つめる地域は、大人が気付かない大切な未来を見つめているのかもしれません。ぜひ足をお運びくだされば幸いです。

